



特定非営利活動法人 OurPlanet-TV

第12回通常総会議案書

2017年2月26日(日)13時～14時30分
於) NSビル 203号室 (東京都千代田猿樂町2-2-3)

総会議事

1. 総会成立の確認
2. 総会開会挨拶
3. 議長選出
4. 書記、議事録署名人の選任
5. 報告事項
6. 審議事項
 - 第一号議案 2016年度事業報告
 - 第二号議案 2016年度決算報告
 - 第三号議案 2017年度事業計画
 - 第四号議案 2017年度予算
 - 第五号議案 役員改選
7. 行事
 - 活動紹介
8. 議長解任
9. 総会閉会挨拶

■第一号議案 2016年度事業報告	
1、事業実施の報告	3
2、事業実施に関する事項	
—コンテンツ制作に係る事業—	
（1）市民の視点や人権・環境を考慮にいたした番組の制作	4
（2）人権・環境を考慮に入れた国内外の優れた映像作品の翻訳・紹介	6
—市民の情報発信（パブリック・アクセス）に係る事業—	
（3）子ども・市民のための映像制作教育	7
（4）市民が情報発信を行うためのインフラ・機材及び交流の場の提供及び環境づくり	7
（5）社会貢献を行う行政・企業・団体への映像・メディア支援	8
■第二号議案 2016年度決算報告	
損益計算書	9
貸借対照表・財産目録	10
活動計算書	12
2016年度監査報告書	14
■第三号議案 2017年度事業計画	
1、事業実施の方針	15
2、事業実施に関する事項	
—コンテンツ制作に係る事業—	
（1）市民の視点や人権・環境を考慮にいたした番組の制作	16
（2）人権・環境を考慮に入れた国内外の優れた映像作品の翻訳・紹介	16
—市民の情報発信（パブリック・アクセス）に係る事業—	
（3）子ども・市民のための映像制作教育	16
（4）市民が情報発信を行うためのインフラ・機材及び交流の場の提供及び環境づくり	17
（5）社会貢献を行う行政・企業・団体への映像・メディア支援	17
■第四号議案 2017年度予算	19
■第五号議案 役員改選	21

特定非営利活動法人 OurPlanet-TV
2016年度 事業報告書

1、事業実施の報告

2016年度は、東京都から念願の認定NPOの認定を受けることができた。ただ非営利団体からの委託制作が大幅に増えたため、独自取材による映像配信が大幅に減少。認定NPOとなったことを大きな寄付につなげるところまでは至らなかった。

独自制作を内容面で見ると、全53本の配信のうち、福島原発事故に伴う健康影響に関する配信が計21本、その他の原発事故関連が12本、五輪関連が12本と、原発事故および五輪関係が全体の85%を占めた。その分、多様性に欠ける傾向となっている。

なお2013年から継続的している南相馬市の小高中学への取材は精力的に行ったものの、避難解除や学校の帰還を控えて教師や生徒が非常にデリケートな状況にあるため、年度内のアウトプットは一切行わなかった。丁寧に内容を詰めた上で、いずれきちんとした形でまとめていきたい。

受託制作の分野では、18歳選挙権をテーマにしたアジア太平洋資料センターの『ゼロから始める主権者教育ー18歳の選挙権』、外国人研修生問題を取り上げた移住連の『人身取引を見ぬく目を〜安全な移住のために』など、重要な社会問題を扱ったPVを制作することができた。これらは委託制作であるため、OurPlanet-TVはあくまでも黒子の立場となるが、通常の委託制作費用に比べ大幅に格安であるうえ、これらの作業によって、独自に活動に大きな制約を受けることから、今後、こうした委託制作番組もOurPlanet-TVのコンテンツとして、何らかの形で配信できるよう、新たな課題として検討したい。

不調だったのは、映像ワークショップである。受講生数が、春期4人、秋期5人と極端に少なく、映像制作のグルーピングなどで、運営に多少困難が生じた。また夏期は受講者が開催最低人数を下回り、中止とした。ユーチューバーが憧れの職業となり、携帯動画が身近なものとなった今、OurPlanet-TVとして、どのような内容を充実させるべきか。集客については、次年度へ課題を残す結果となった。ただし、完成した作品はどれも素晴らしい内容で、受講者数の減少が、質の低下にはつながっていないことが、私たちにとっては誇りでもある。

福島映像祭は4回目を迎え、安定感のある運営ができた。とくに、ポレポレ東中野1階のカフェ&スペースで開催した映像とトークのイベントはどれも盛況で、充実した内容となった。観客の中にはリピーターも増えるなど、福島映像祭を心待ちにしている方も少なくない。来年度以降も、様々な挑戦をしつつ、丁寧に継続していきたい。

2016年、OurPlanet-TVは設立15周年を迎えた。12月には、神保町のレストランで記念パーティーを開催し、福島や四国、愛知など全国各地から、多数の方が駆けつけてくださった。パーティーでは、2001年からこの15年を振り返る20分のビデオを上映したところ、大変好評を得た。ブロードバンドの黎明期からネット動画の浸透期にあたるこの15年間、多くの方に支えていただき、今があることを、この動画を通して改めて噛み締めることができた。OurPlanet-TVを応援して下さる全ての方に、心から感謝したい。

代表理事 白石 草

- (1) 会員数 *2017年1月6日現在
正会員 24名 / 賛助会員 個人 202名(新規26名) / 団体 1
- (2) 従業員の状況 *2017年1月5日現在
*フルタイムスタッフ3名
- (3) 活動の拠点 *東京事務所

2、事業実施に関する事項

—コンテンツに制作に係る事業—

(1) 市民の視点や人権・環境を考慮にいたした番組の制作

独自企画番組の制作および配信

2016年度は、独自取材による映像配信が減少した1年だった。特に企画ものが激減した。その中で突出しているのが、福島原発事故に伴う健康影響に関する番組である。専門性を含め、他のメディアを凌駕していると自負している。また、このテーマの関連で、ソーシャルジャスティス基金から助成を受け、「SOYプロジェクト」という調査活動を継続している。

このほか、五輪に関する番組も検討しており、特に、霞ヶ丘アパートの追い出しに関するニュースは反響が大きかった。なお2013年から継続的に行っている南相馬市の小高中学への取材は精力的に行ったものの、避難解除や学校の帰還を控えて教師や生徒が非常にデリケートな状況にあるため、年度内のアウトプットは一切、行わなかった。

【事業内容】

映像作品 (ContAct/NewsClips/Documentary)

配信番組は計53番組(コンタクト4本、ニュース49本)。

◆ ContAct 2016年4本

- 3月11日『子どもたちを守りたい～県境を超えてつながる母親たち』
- 10月14日『奪われた豊かな暮らし～那須高原・6年目の夏』
- 12月19日『築地は「ひとの町」～本橋成一さんインタビュー』
- 12月22日『あなたも監視されている～スノーデンの暴露とは』

◆ NewsClips 2016年49本

- 1月 5日『参院選「野党は共闘を」～反安保・市民連合が初街宣』
- 1月 7日『「こども食堂」全国に輪～子どもの貧困化が進む中』
- 1月12日『福島：避難解除地域でアスベスト調査～家屋解体が本格化』
- 1月15日『隈研吾氏反論、「ザハ案とは全く違うデザイン」～新国立競技場』
- 1月19日『汚染米「がれき撤去が原因」～京大教授が南相馬で報告』
- 1月19日『【アーカイブ】こども食堂のつくり方講座』
- 1月20日『「避難指示」解除区域も住宅支援打ち切りへ～2018年春』
- 1月25日『【アーカイブ】子ども被災者支援法自治体議連による政府交渉』
- 1月28日『「野宿者排除やめろ」～新国立競技場予定地で緊張続く』
- 2月 3日『「飲料水なし」生活強いられる住民～新国立建設で立ち退き』
- 2月 3日『茨城の「分散保管」へ～国、指定廃棄物の方針転換』
- 2月 7日『丸川大臣、陳謝も発言撤回せず～年1ミリシーベルト「根拠なし」発言』
- 2月 9日『甲状腺がん「信頼性高いリスクの推定を」～国際環境疫学会が忠告』
- 2月12日『甲状腺がん悪性・悪性疑い166人～福島県調査』
- 2月29日『東電幹部ら強制起訴～「真相を明らかに」告訴団』
- 3月 2日『【アーカイブ】子ども・被災者支援議員連盟の政府ヒアリング』
- 3月 7日『星北斗氏記者会見(県民健康調査検討委員会座長)』
- 3月12日『「小児甲状腺がん家族会」発足記者会見』
- 3月24日『「どうみる？甲状腺がん」鈴木元氏 Vs 津田敏秀氏』
- 3月24日『五輪に向けホームレス強制排除へ～新国立競技場建設問題』
- 3月30日『野宿者排除に抗議会見～新国立競技場建設問題』
- 4月 8日『東京五輪エンブレム 最終候補4作品発表』
- 4月16日『野宿者のテントを強制撤去～新国立競技場建設』
- 4月22日『東京五輪エンブレム、「組市松紋」のA案に決定』
- 5月18日『アパートを強制封鎖～五輪に向け、都が工事強行』
- 5月29日『県民健康調査データ 研究者へ提供ヘルールづくり』

- 6月 2日 『県民健康調査データ～県立医大の目的外利用、県把握せず』
- 6月 6日 『事故時5歳児、甲状腺がん～悪性・悪性疑い172人』
- 6月16日 『原発審査「地震想定」見直し必要～元規制委の島崎氏が田中委員長と面談』
- 6月24日 『新国立競技場～工事開始まで最終設計図は公表せず』
- 7月 5日 『小泉元首相が基金設立～トモダチ作戦で被ばく兵士支援』
- 7月19日 『元規制委の島崎氏が田中委員長と面談』
- 8月16日 『「民主主義問い続けた」シールズ解散、今後もそれぞれ活動』
- 8月24日 『「甲状腺検査の拡充」求め県に要望書～家族会』
- 9月 8日 『「3・11甲状腺がん子ども基金」設立記者会見』
- 9月12日 『福島調査・甲状腺がん疑い2巡目だけで59人～計174人』
- 9月25日 『甲状腺がんをめぐり専門家ら議論～福島で国際会議』
- 10月 3日 『ホームレスの追い出し再び～公園をうばう五輪再開発』
- 10月31日 『【アーカイブ】次期NHK会長の選考に関する記者会見』
- 11月8日 『原発避難者ら「路頭に迷う」～住宅支援の継続要望』
- 11月25日 『小児甲状腺がん患者に療養費～市民団体』
- 12月 1日 『ブラック企業大賞2016～電通など10社ノミネート』
- 12月 7日 『「福島、チェルノブイリと同じ印象」アレクシエビッチ氏、学生と対話で』
- 12月 9日 『甲状腺検査の見直しを提言～山下俊一氏ら専門家』
- 12月11日 『新国立競技場～1年遅れで工事着工』
- 12月15日 『甲状腺がん治療充実へ～国内最大の治療施設完成・福島医大』
- 12月20日 『除染費用300億は国民負担へ～復興が指針を決定』
- 12月26日 『甲状腺がん・福島県外で重症化～基金が初の療養費給付』
- 12月27日 『福島の小児甲状腺がん疑い含め183人～2巡目で68人』



福島映像祭2016

今回で4回目となる「福島映像祭2016」を開催。東京・東中野のミニシアター「ポレポレ東中野」にて福島や原発事故後の社会を取り扱った映像作品4作品上映。スペース「ポレポレ坐」では、福島に通い続ける市民・ジャーナリストによるビデオを上映するイベント、福島中央テレビとの共同プログラムとして地元のニュースを見ながら解説を聞くイベント、そして飯舘村にフォーカスしたイベント3つを開催した。

参加者からは「年を追うごとに複雑になる福島の実情を垣間見ることができました。」「福島に住み生活されている方の考えを一部知ることができました。」といった、当事者の声に触れられることを特徴としている本映像祭ならではの反応をいただいた。また、「映像での住民の様子をみて、身近に感じられました。このようなイベントが今後も続けられることを希望しています。」といった、映像の持つ力と可能性、そして継続を期待する声も多数いただき励みとなった。

【福島映像祭2016概要】

<映画上映> (上映回数7回でのべ360名参加)

『福島 生きものの記録 シリーズ4～生命～』 (監督：岩崎 雅典)

『新地町の漁師たち』 (監督：山田 徹)

『奪われた村 避難5年目の飯舘村民』 (監督：豊田 直巳)

『飯舘村の母ちゃんたち 土とともに』 (監督：古居 みずえ)

<イベント>

- 9月18日 上映&トーク「福島中央テレビが伝える6年目の福島」64名参加
ゲスト：佐藤 崇（福島中央テレビ 常務取締役報道制作局長）
- 9月19日 市民部門上映&トーク「わたしが伝える福島」32名参加
ゲスト：茅島 佑佳子／笠井 千晶（市民部門上映作品 制作者）
- 9月22日 トークセッション「飯舘村を語る～全村避難、そして避難解除～」76名参加
ゲスト：長谷川 健一（酪農家／飯舘村前田地区区長）
豊田 直巳（フォトジャーナリスト／映画監督「奪われた村」他）
古居 みずえ（フォトジャーナリスト／映画監督「飯舘村の母ちゃんたち」他）



ふくしまのこえ

震災、原発事故から時間が経過するにつれ関心の低下もあり、作品募集に課題が残った。

DVD販売

新たに「飯舘村わたしの記録」をDVD化し90枚を販売した。「チェルノブイリ 28年目の子どもたち」は引き続き、各地域で自主上映、勉強会が開催されている。委託販売契約中の株式会社BBBでは、図書館や大学への販路開拓が促進された。

- ◆ 「チェルノブイリ28年目の子どもたち」（2,000円）販売枚数 12枚
- ◆ 「チェルノブイリ28年目の子どもたち2」（2,000円）販売枚数 12枚
- ◆ 「チェルノブイリ28年目の子どもたち2本セット」（5,000円）販売枚数 15枚
- ◆ 「飯舘村 わたしの記録」（一般3,240円／ライブラリ21,600円）販売枚数90枚

自主上映

ドキュメンタリー映画「飯舘村 わたしの記録」は主に3.11に関連するイベントで滋賀県、茨城県にて上映された。また、英語版も収録したDVDの販売開始に伴い、アメリカ・NYにて初の海外上映イベントも企画された。

【自主上映実績】

- ◆ 「飯舘村 わたしの記録」 3回（滋賀県長浜市・茨城県牛久市・アメリカNY州ブルックリン）

(2) 人権・環境を考慮に入れた国内外の優れた映像作品の翻訳・紹介

映像コンテンツの翻訳

- ◆ 高木基金の助成を得て、「東電テレビ会議～49時間の記録」の英訳化はネイティブチェックに1年の歳月がかかった。12月中にようやく翻訳が終了した。

—市民の情報発信（パブリック・アクセス）に係る事業—

（3）子ども・市民のための映像制作教育

映像ワークショップ

【事業内容】

従来通り1月、5月、10月開始の3ヶ月コースの講座を行った。参加者の年齢層は20代から50代までと幅広く、大学生から会社員、デザイナー、ジャーナリスト、高校の教員など多様な方が参加した。岐阜や群馬など遠方からの参加者もあった。一方で、例年に比べて申し込み者が少なく、夏講座は中止とし、集客に課題が残った。4月からは、映画監督の土屋豊さんを講師に迎え、1年間の長期映像制作ワークショップ「ビデオのアトリエ」を開講。現在、受講生が長編ドキュメンタリー制作に取り組んでいる。

【実施期間】

—入門編

- ◆ 1月～3月 冬期映像制作ワークショップ（8人）
- ◆ 5月～7月 春期映像制作ワークショップ（4人）
- ◆ 10月～12月 秋期映像制作ワークショップ（5人）

—実践編

- ◆ 4月～2017年4月 ビデオのアトリエ（6人）

【ワークショップ完成作品】

- ◆ 2016年冬「フラジリティの作家 塩見鮮一郎」
「ミャンマーでなにができるかな～ニシガイドさんが行く」
- ◆ 2016年春「シネマ銭湯」
- ◆ 2016年秋「リニアがくるまち」「アトピー残花」



（4）市民が情報発信を行うためのインフラ・機材及び交流の場の提供及び環境づくり

メディアセンター

【事業内容】

昨年に引き続き、放射能から子どもたちを守る全国ネット、および日本ビジュアルジャーナリスト協会（JVJA）、アジアプレスがメディアカフェの常駐利用会員となり、コンスタントに利用収入が入っている。映像ワークショップ卒業生が新たな作品作りのために、相談に来たりしている。機材貸し出しなどの課題は、ウェブサイトを改善することなどで利用者増を目指したい。

アドボカシーおよびキャンペーン活動

【事業内容】

情報のアクセスやコミュニケーションの権利を広げるためのアドボカシー活動に位置づけている「国会記者会館屋上裁判」は2015年6月最高裁に上告したものの、2016年6月に1年を経て棄却された。大変残念な結果となった。また同裁判に関する十分な情報発信や支援の輪を形成ができなかったことが課題である。

「右のものを左とはいえない」「政府の発表のみを報道する」などなど、様々な発言で物議を醸したNHKの榑井正人会長の再任問題をめぐり、他の有識者とともに記者会見を行うなど、公共放送の会長選をめぐって取組みを行った。幸い榑井氏は再選されないことが決定したものの、財界からの会長登用が続く。NHKをめぐっては、受信料やインターネット配信など、様々な問題が山積している。公共放送のあり方について、引き続き取り組んでいきたい。

(5) 社会貢献を行う行政・企業・団体への映像・メディア支援

映像コンテンツなどの受託制作

【事業内容】

受託制作の分野では、18歳選挙権をテーマにしたアジア太平洋資料センターの『ゼロから始める主権者教育－18歳の選挙権』、外国人研修生問題を取り上げた移住連の『人身取引を見ぬく目を～安全な移住のために』など、重要な社会問題を扱ったPVを制作することができた。これらは委託制作であるため、OurPlanet-TVはあくまでも黒子の立場となるが、通常の委託制作費用に比べ大幅に格安であるうえ、これらの作業によって、独自に活動に大きな制約を受けることから、今後、こうした委託制作番組もOurPlanet-TVのコンテンツとして、何らかの形で配信できるよう、新たな課題として検討したい。

- ◆ 城南信用金庫（よい仕事おこしフェア中継／講演会ライブ中継等）
- ◆ アジア太平洋資料センターの『ゼロから始める主権者教育－18歳の選挙権』
- ◆ 移住連の『人身取引を見ぬく目を～安全な移住のために』
- ◆ メディカ出版『小児のPoint of care Ultrasound』
- ◆ 脱原発弁護団『ここが知りたい！脱原発裁判』（8回シリーズ）

組織

認定NPO

2016年3月2日に認定NPOを取得。設立15周年を迎え、より公益性の高い団体として社会的にも認知されるようになった。

ファンドレイジング

15周年を記念し、10月に「会員募集キャンペーン」を実施。16名が新たに入会した。12月には記念パーティーを開催。スタッフも含め70名以上が参加した。

- ◆ 新規入会者名 26名（賛助会員個人）
- ◆ 寄付総額 340万円以上 / 寄付者 220名以上
※10万円以上の寄付者8名

【助成金実績】

- ・ソーシャルジャスティス基金（SOYプロジェクト） 100万円
- ・ベネッセ子ども基金（南相馬市小高中学の子どもたちとの映像記録） 120万円
- ・パルシステム東京市民活動助成基金（福島映像祭） 50万円

スタッフ体制

昨年に引き続きフルタイムスタッフは3人体制となった。インターンは3名を受け入れた。

損益計算書		
特定非営利活動法人OurPlanet-TV		[税込] (単位:円)
	自 2016年 1月 1日	至 2016年12月31日
《経常収支の部》		
[経常収支の部]		
【経常収入】		
番組制作情報提供収入	1,773,825	
メディア教育支援収入	2,472,336	
社会貢献メディア支援収入	7,641,340	
助成金収入	2,700,000	
正会員会費収入	250,000	
賛助会員会費収入	1,820,000	
寄付金収入	3,481,510	
取材謝礼・原稿料収入	3,333	
雑収入	460,282	
受取利息収入	414	
経常収入 計		20,603,040
【事業費】		
期首棚卸高	239,480	
期首商品・製品棚卸高 計	239,480	
番組制作情報提供支出	4,588,337	
メディア教育支援支出	952,165	
社会貢献メディア支援支出	1,226,840	
給料 手当(事業)	7,503,576	
法定福利費(事業)	1,120,112	
当期事業費 計	15,391,030	
合 計	15,630,510	
期末棚卸高	△ 174,377	
期末商品・製品棚卸高 計	△ 174,377	
事業費 計		15,456,133
【管理費】		
給料 手当	1,875,894	
支払 報酬	319,680	
法定福利費	280,029	
福利厚生費	14,996	
通 信 費	193,837	
荷造 運賃	117,236	
水道光熱費	66,707	
旅費交通費	312,830	
接待交際費	5,000	
会 議 費	16,250	
事務用消耗品費	102,233	
備品消耗品費	107,068	
新聞図書費	7,576	
印刷 経費	139,101	
修 繕 費	85,860	
地代 家賃	435,456	
保 険 料	36,690	
租税 公課	611,300	
諸 会 費	102,390	
支払手数料	99,389	
会場費	433,150	
雑 費	1,838	
管理費 計		5,364,510
経常収支差額		△ 217,603
当期正味財産増加額		△ 217,603
前期繰越正味財産額		12,919,731
当期正味財産合計		12,702,128

貸借対照表

特定非営利活動法人OurPlanet-TV

[税込] (単位: 円)

2016年12月31日 現在

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		預り金	243,872
現金	27,093	未払法人税等	70,000
小口現金	1,920	未払消費税	503,100
ドル現金	36,694	流動負債計	816,972
当座預金	998,874	負債の部合計	816,972
普通預金	8,062,113	正味財産の部	
定期預金	3,058,029	【正味財産】	
現金・預金計	12,184,723	正味財産	12,702,128
(売上債権)		(うち当期正味財産増加額)	△ 217,603
未収金	68,000	正味財産計	12,702,128
売上債権計	68,000	正味財産の部合計	12,702,128
商 品	174,377		
流動資産合計	12,427,100		
【固定資産】			
(投資その他の資産)			
保証金	1,092,000		
投資その他の資産計	1,092,000		
固定資産合計	1,092,000		
資産の部合計	13,519,100	負債・正味財産の部合計	13,519,100

財産目録

特定非営利活動法人OurPlanet-TV	[税込] (単位: 円)
	2016年12月31日 現在
《資産の部》	
【流動資産】	
(現金・預金)	
現金	27,093
小口現金	1,920
ドル現金	36,694
郵便振替	998,874
普通預金	8,062,113
東京三菱UFJ神保町	(4,618,160)
東京三菱UFJ春日町	(20)
東京三菱UFJトヨタ	(902)
郵便貯金総合	(23,294)
三菱特別プロジェクト	(314,336)
城南信用金庫九段下	(3,092,025)
ペイパル	(13,376)
定期預金 (5年定期/預入2013年12月)	3,058,029
現金・預金 計	12,184,723
(売上債権)	
未収金 (DVD売上20件)	68,000
売上債権 計	68,000
商品 (DVD610枚/書籍65冊)	174,377
流動資産合計	12,427,100
【固定資産】	
(投資その他の資産)	
敷金	1,092,000
投資その他の資産 計	1,092,000
固定資産合計	1,092,000
資産の部 合計	13,519,100
《負債の部》	
【流動負債】	
預り金	243,872
報酬源泉	(50,221)
健康・介護	(42,210)
給与源泉所得	(78,713)
厚生年金	(72,728)
未払法人税等 (法人住民税均等割)	70,000
未払消費税	503,100
流動負債 計	816,972
負債の部 合計	816,972
正味財産	12,702,128

活 動 計 算 書

[税込] (単位: 円)	
特定非営利活動法人OurPlanet-TV	自 2016年 1月 1日 至 2016年 12月31日
【経常収益】	
【受取会費】	
正会員 年会費	250,000
正会員 入会金	0
賛助会員 年会費 個人	1,770,000
賛助会員 年会費 団体	50,000
【受取寄付金】	
一般寄附	3,456,510
福島映像祭	25,000
【受取助成金等】	
助成金	2,700,000
会費・寄付・助成金 収益 計	8,251,510
【事業収益】	
番組制作情報提供	1,773,825
メディア教育支援	2,472,336
社会貢献メディア支援	7,641,340
事業収益 計	11,887,501
【その他収益】	
取材謝礼・原稿料	3,333
受取 利息	414
雑 収 益 (15周年記念)	348,000
雑 収 益 (その他)	112,282
その他収益 計	464,029
経常収益 計	20,603,040
【経常費用】	
【事業費】	
(人件費)	
給与	7,503,576
法定福利費	1,120,112
(その他経費)	
通信費	448,776
荷造 運賃	5,906
水道光熱費	266,825
旅費交通費	1,889,543
接待交際費	41,000
広告宣伝費	20,640
会議費	155,462
事務消耗品	7,558
備品消耗品	201,584
新聞図書費	61,280
印刷経費	99,980
修繕費	30,000
地代 家賃	1,741,824
租税 公課	1,400
会場費	467,450
雑費	25,140
外注費	648,792
調査費 (取材費)	14,648
謝礼金	92,160
仕入	264,147
映画上映料	75,600
ワークショップ講師料	210,000
ワークショップ受講料 返還	62,730
事業費 計	15,456,133

【管理費】		
（人件費）		
給与	1,875,894	
法定福利費	280,029	
（その他経費）		
支払報酬	319,680	
福利厚生	14,996	
通信費	193,837	
荷造運賃	117,236	
水道光熱費	66,707	
旅費交通費	312,830	
接待交際費	5,000	
会議費	16,250	
事務消耗品	102,233	
備品消耗品	107,068	
新聞図書費	7,576	
印刷経費	139,101	
修繕費	85,860	
地代家賃	435,456	
保険料	36,690	
租税公課	541,300	
諸会費	102,390	
支払手数料	99,389	
会場費	433,150	
雑費	1,838	
管理費計		5,294,510
経常費用計		20,750,643
当期経常増減額		△ 147,603
【経常外収益】		
経常外収益計		
【経常外費用】		
経常外費用計		
税引前当期正味財産増減額		△ 147,603
経理区分振替額		
税引前当期正味財産増減額		△ 147,603
法人税・住民税・事業税		70,000
前期繰越正味財産額		12,919,731
次期繰越正味財産額		12,702,128

監査報告書

特定非営利活動法人 OurPlanet-TV

代表理事 白石 草 様

私は、2016年1月1日から2016年12月31日までの監査を行ない、次のとおり報告する。

1、監査の方法の概要

会計監査について、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を監査した。（監査実施日2017年2月1日13:30～14:45）業務監査については2016年12月4日に実施された設立15周年パーティーに参加した。

2、監査意見

(1) 活動計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財政状態を正しく示しているものと認める。

(2) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

2017年2月1日

特定非営利活動法人 OurPlanet-TV

監事 早坂 毅 

特定非営利活動法人 OurPlanet-TV
2017年度 事業計画

1、事業実施の方針

排外主義的かつ独裁的な政治が世界のあちこちで台頭し、不安定な時代が到来している。貧富の格差が広がり差別がはびこり、暴力が吹き荒れている。

日本国内においても、与党が圧倒的な勢力を誇る中、共謀罪をはじめとする、人権や思想を縛る法律が準備され、かたや原発事故は過去のものとなされ、五輪を軸としたショックドクトリンが進められている。政府や財界からの圧力によって、マスメディアも力は削がれ、今や、権力の監視装置としては十分な力を期待できない状況に陥っている。

これだけの課題が山積するなか、小さな OurPlanet-TV にできることには限界がある。しかし、これまでの歩みを大切に、一步一步丁寧に課題に向き合い、私たちなりの視点で、取材、報道、発信に取り組んでいきたい。

特に原発事故に伴う避難政策は、2017年に一つの大きな山場を迎える。3月末には、多くの地域の避難指示が解除され、「自主避難者」の住宅支援を打ち切られる予定だ。多くの人々が未来を見ることができず、住まいの確保さえままならない状況が生まれる。原発被災者のおかれた厳しい現実を光を当てていきたい。

同時に原発事故をかき消す役割を担う「2020東京五輪」の準備がいよいよ本格化する。東京の激しい変化とそれに伴う様々な問題を掘り起こして、発信していく。

なお2016年度は映像ワークショップの参加人数が減るなど、メディアカフェ事業がふるわなかった。しかし、社会的には、ビデオとインターネットを活用した映像発信は最もホットな分野であることから、十分に研究を重ね、活動を充実させたい。

フルタイムの有給スタッフすべてが、10年以上の勤続となる2017年。活動をマンネリ化させることなく、それぞれが様々な挑戦を行い、独立メディアとして力を発揮していきたい。財政的にも、次の飛躍ができるよう、毎年、課題となっている資金調達がスムーズに進むよう、努力を重ねていきたい。

2017年1月6日

代表理事 白石 草

2、事業実施に関する事項

—コンテンツに制作—

(1) 市民の視点や人権・環境を考慮にいたった番組の制作

独自企画番組の制作および配信

前年に引き続き、原発に伴う様々な社会問題とりわけ、被曝による健康問題に関して、充実した情報を提供できるようにしたい。また東京五輪をめぐるのは、スポーツ利権や招致をめぐる不正疑惑、野宿者排除や貧困の問題、過剰警備や監視システムなど、情報公開なども活用しながら力を入れていく。共謀罪なども準備されているため、粘り強い取材を重ねたい。

福島映像祭

5回目の開催となる今回は、映画などの作品としてまとまっている映像だけでなく、実験的な作品の上映の可能性も探っていきたい。また、「市民部門」に関しては当初の企画意図に立ち返り、編集された映像作品だけでなく、手元に眠っているホームビデオやスナップ写真、風景写真など、より手軽なものを更に募集していきたい。

【実施期間】 2017年9月予定

ふくしまのこえ

福島映像祭と連動し、呼びかけを強化するとともにより簡単な形で参加できる仕組みを考えていく。

DVD販売・自主上映

引き続き、DVD「チェルノブイリ 28年目の子どもたち」「飯館村 わたしの記録」の販売を拡げていく。「東電テレビ会議」の自主上映に関しては、回数は多くないものの現在も問い合わせがあり、英語版完成にあたって更に上映の機会を呼びかけていきたい。

(2) 人権・環境を考慮に入れた国内外の優れた映像作品の翻訳・紹介

映像コンテンツの翻訳

英語版「東電テレビ会議～49時間の記録」を完成させ、海外での上映の機会を探る。

映画紹介

ドキュメンタリー映画に限らず、多様な視点を持つインディペンデント作品を随時紹介していく。

—市民の情報発信（パブリック・アクセス）に係る事業—

(3) 子ども・市民のための映像制作教育

映像ワークショップ

【事業内容】

年3回にわたる定期的な入門コースの他に、スタディツアーと映像制作を合体させた、1日取材体験講座を開催する。東京五輪に焦点を当てて、新国立競技場や選手村予定地などの再開発現場を訪れ、取材や撮影について学ぶ。受講者数を増やすため、申込者の傾向を分析し、宣伝方法を改善する。

【実施期間】

- ・ 1月～4月 ビデオのアトリエ講座（昨年より継続中。全12回講座）
- ・ 3月 1日取材体験講座
- ・ 4月～6月 春期映像制作ワークショップ
- ・ 7月 1日取材体験講座

- ・ 8月 夏の3日間集中講座
- ・ 10月～12月 秋期映像制作ワークショップ

(4) 市民が情報発信を行うためのインフラ・機材及び交流の場の提供及び環境づくり

メディアカフェ

【事業内容】

引き続き事務局スペースのデスクを貸し出すサービスを実施。「子どもたちを放射能から守る全国ネットワーク」と「日本ビジュアルジャーナリスト協会 (JVJA)」「アジアプレス」の3団体が入居する。定期的にミニ上映会「1コインサロン」などを企画しワークショップ卒業生や、ドキュメンタリー愛好家が集える場をつくり、スペース利用の拡大や機材レンタル、ワークショップの集客に繋げる。

【実施時期】 1月～12月随時

アドボカシー活動

【事業内容】

政権によるメディアへの介入が強まるなか、メディアの更なる萎縮が懸念される。あらゆる言論表現規制などに関する問題提起を行うとともに、パブリックアクセス制度をはじめ、メディアの民主化につながるよう取り組む。

【実施時期】 1月～12月随時

(5) 社会貢献を行う行政・企業・団体への映像・メディア支援

社会貢献支援事業は、ライブ配信やウェブ構築など、新たな分野を広げていきたい。

映像コンテンツなどの受託制作

【事業内容】 これまで同様、NPOやNGOなど、社会的に意義ある取り組みをしている団体の活動や理念を紹介し、意識改革を行うためのビデオ制作を行い、広報PRに関して、他の団体のより良い相談役となれるよう取り組む。

【実施時期】 1月～12月随時

講師派遣

【事業内容】 希望に応じて、映像ワークショップや広報セミナーの講師派遣または運営・実施を行う。

【実施時期】 随時

—組織運営に関する事項—

組織・体制

フルタイムスタッフ3名に加え、必要に応じてスタッフを配置する。またインターンの受け入れを積極的に行う。

ファンドレイジング

更なる寄付と会員獲得に力を入れていく。寄付の拡大を目指し、財政基盤を充実させていきたい。助成金は五輪に向けた大規模なプロジェクトを達成できるような資金を調達していきたい。

特定非営利活動に係る事業会計収支予算書		[税込] (単位:円)
特定非営利活動法人OurPlanet-TV		
《経常収支の部》		
自 2017年 1月 1日 至 2017年12月31日		
[経常収支の部]		
【経常収入】		
番組制作情報提供収入	4,200,000	
メディア教育支援収入	3,100,000	
社会貢献メディア支援収入	7,000,000	
助成金収入	3,000,000	
正会員会費収入	260,000	
賛助会員会費収入	2,000,000	
寄付金収入	4,000,000	
雑収入	100,000	
受取利息収入	-	
経常収入 計		23,660,000
【事業費】		
番組制作情報提供支出	4,300,000	
メディア教育支援支出	700,000	
社会貢献メディア支援支出	900,000	
地代 家賃 (事業)	1,760,000	
水道光熱費 (事業)	320,000	
給与手当 (事業)	8,000,000	
法定福利費 (事業)	1,280,000	
当期事業費 計	17,260,000	
事業費 計		17,260,000
【管理費】		
給料 手当	2,000,000	
法定福利費	320,000	
福利厚生費	20,000	
通 信 費	100,000	
荷造 運賃	110,000	
水道光熱費	80,000	
旅費交通費	370,000	
会 議 費	10,000	
事務用消耗品費	100,000	
備品消耗品費	500,000	
新聞図書費	50,000	
印刷 経費	150,000	
修 繕 費	100,000	
地代 家賃	440,000	
保 険 料	50,000	
租税 公課	1,800,000	
諸 会 費	100,000	
支払手数料	100,000	
雑 費	-	
管理費 計		6,400,000
支出 計		23,660,000
経常収支差額		0

活 動 予 算 書

[税込] (単位: 円)	
特定非営利活動法人OurPlanet-TV	自 2017年 1月 1日 至 2017年 12月31日
【経常収益】	
【受取会費】	
正会員 年会費	260,000
賛助会員 年会費	2,000,000
【受取寄付金】	
一般寄附	4,000,000
【受取助成金等】	
助成金	3,000,000
会費・寄付・助成金 収益 計	9,260,000
【事業収益】	
番組制作情報提供	4,200,000
メディア教育支援	3,100,000
社会貢献メディア支援	7,000,000
事業収益 計	14,300,000
【その他収益】	
受取 利息	-
雑 収 益	100,000
その他収益 計	100,000
経常収益 計	23,660,000
【経常費用】	
【事業費】	
(人件費)	
給与	8,000,000
法定福利費	1,280,000
(その他経費)	
通信費	500,000
荷造 運賃	20,000
水道光熱費	320,000
旅費交通費	2,000,000
接待交際費	50,000
広告宣伝費	50,000
会議費	200,000
事務消耗品	50,000
備品消耗品	700,000
新聞図書費	150,000
印刷経費	150,000
修繕費	80,000
地代 家賃	1,750,000
会場費	500,000
雑費	50,000
外注費	1,000,000
調査費 (取材費)	50,000
謝礼金	100,000
仕入	100,000
映画上映料	100,000
ワークショップ講師料	60,000
事業費 計	17,260,000

【管理費】		
(人件費)		
給与	2,000,000	
法定福利費	320,000	
(その他経費)		
福利厚生費	20,000	
通信費	100,000	
荷造運賃	110,000	
水道光熱費	80,000	
旅費交通費	370,000	
会議費	10,000	
事務用消耗品費	100,000	
備品消耗品費	500,000	
新聞図書費	50,000	
印刷経費	150,000	
修繕費	100,000	
地代家賃	440,000	
保険料	50,000	
租税公課	1,800,000	
諸会費	100,000	
支払手数料	100,000	
雑費	-	
管理費計		6,400,000
経常費用計		23,660,000
当期経常増減額		0

役員改選

- 1、任期満了となる理事ならびに監事の改選を行う。次期役員候補を以下の通り 提案する。
- 2、新任任期は、第12回通常総会終了後より2019年度総会までとする。
- 3、役員候補案

◆理事候補案（五十音順）

<継 続>

- ・ 池田 佳代（メディアクリエイター／おおた市民活動推進機構副代表理事）
- ・ 池本 桂子（特定非営利活動法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 理事）
- ・ 稲熊 伸治（クリエイティブ・ディレクター）
- ・ 大槻 貴宏（ポレポレ東中野支配人／トリウッド代表）
- ・ 河崎 健一郎（弁護士／福島の子どもたちを守る法律家ネットワーク共同代表）
- ・ 近藤 剛（フリーディレクター）
- ・ 白石 草（ディレクター／ジャーナリスト）
- ・ 下村 健一（白鷗大学客員教授／時々ジャーナリスト）
- ・ 浜田 忠久（市民コンピュータコミュニケーション研究会代表／東京大学大学院）
- ・ 松浦 さと子（龍谷大学教授）
- ・ 毛利 嘉孝（東京芸大教授）

◆監事候補案

<継 続>

- ・ 早坂 毅（税理士・行政書士）

2016年9月15日 東京新聞

「今も続く事故の影響見て」

東京電力福島第一原発事故後の福島を伝える映画や映像を集めた「福島映像祭2016」が十七日、中野区の映画館「ポレポレ東中野」で開かれる。事故から五年半が過ぎ、避難指示が徐々に解除される中、福島は今を見つめる。

「奪われた村 避難5年目の飯館村」の一場面（豊田直巳監督提供）

今年制作された四作品の他、市民による記録やテレビ番組を上映。映画監督と福島県飯館村の酪農家のトークセッションなどもある。主催するNPO法人アワー・プラネット・ティービー代表の白石草さんは「避難解除や帰還の問題を抱える福島は、刻々と状況が変化している。今も続く事故の影響を見てほしい」と話す。

豊田直巳監督の「奪われた村 避難5年目の飯館村」は、原発事故が村から何を奪ったのかを村人の証言を中心に映し出す。古居みずえ監督の「飯館村の母ちゃんたち 土とともに」は仮設住宅で支え合いながら暮らす、へこたれない二人の女性の日常を描く。

一回券は一般千五百円、六十歳以上千二百円、大学・専門学校生・障害者千円、高校生以下七百円。三回券は三千六百元。問い合わせはポレポレ東中野 電話03(3371)0088へ。（片山夏子）



「奪われた村 避難5年目の飯館村」の一場面（豊田直巳監督提供）

「福島映像祭」

あさってから中野

2016年10月30日 東京新聞

21 インタビュー

2016年(平成28年)10月30日(日曜日)

今日千日、ソネット放送局(Our Planet-TV)

（東京都）は設立が五年を迎えた。代々の白石草さんは「テレビ業界から転身し、独自の視点で制作・番組作りをやってきた。東日本大震災後は東電力福島第一原発事故の現場をめぐり、被災者の苦しみや苦しみを伝えることが使命」と話す。

大手では足りぬ 被ばく取材継続

「奪われた村」の監督、白石草さん。取材は被災地をめぐり、被災者の苦しみや苦しみを伝えることが使命。

「奪われた村」の監督、白石草さん。取材は被災地をめぐり、被災者の苦しみや苦しみを伝えることが使命。

「奪われた村」の監督、白石草さん。取材は被災地をめぐり、被災者の苦しみや苦しみを伝えることが使命。



写真・田木直子

「奪われた村」の監督、白石草さん。取材は被災地をめぐり、被災者の苦しみや苦しみを伝えることが使命。

「奪われた村」の監督、白石草さん。取材は被災地をめぐり、被災者の苦しみや苦しみを伝えることが使命。

「奪われた村」の監督、白石草さん。取材は被災地をめぐり、被災者の苦しみや苦しみを伝えることが使命。